

- 【宗派】 真言宗御室派
- 【本尊】 薬師如来
- 【開基】 理源大師
- 【創建】 奈良時代
- 【歴史】



聖通寺山が瀬戸内海に半島の様につき出していた奈良時代の天平年間(729～749年)行基菩薩により釈迦如来を本尊とする釈迦院として開創されました。

平安時代の貞観10年(868年)に聖宝理源大師により再興されます。聖宝の二字をわけて壺平山聖通寺宝光院と号しました。

～海から現れたご本尊～

理源大師により聖通寺と改名されたとき、本尊も薬師如来に交替しています。

今から1170年ほど前の話です。光仁天皇の子孫にあたる葛声王^{くすなのおう}を追ってその妻綾子姫が瀬戸内海を旅していた折、海の上で突然産気をもよおし苦しみだした時、海中より気高い姿の婦人が現れ、海の上を歩いて姫に近づき、無事に赤ちゃんを産ませると、水面を歩いて聖通寺山の北あたりの海中に姿を消しました。こうして生まれたのが理源大師です。

大師が成長して釈迦院へ通っていたある朝、漁師たちが急に魚が採れなくなると騒いでいます。大師がふと空を見上げると、紫の雲がたなびく中、そこから差す光で海辺が黄金色に輝いています。不思議に思い漁師に網を下ろさせたところ、1ト^り程ある石仏が軽々と浮かび上がりました。そのお顔は、母君から聞かされていた高貴な婦人にそっくりで「縁深き仏」とこの石仏(薬師如来)を本尊として寺を再興したのです。ちなみに、ご本尊にはフジツボ等が付いています。

～松平の殿様が建立した本堂～

現在の本堂は、江戸時代の万治4年(1661年)水戸光圀公の実兄、高松藩初代藩主松平頼重公により建立されました。

頼重公が病に苦しみ、薬師如来に平癒を祈願したところ、たちまちに回復したことからそのご利益に感謝の意を表し、本堂を建立しました。本堂には自筆の棟札が残っており、第三代藩主頼豊公より松平家の御紋を当寺の紋に使用することが許されています。

～仙石秀久愛用の巨大薬缶(やかん)～

天正13年(1585年)秀吉の四国征伐のおり、秀吉側にあった仙石秀久は、その戦功として讃岐一国を賜り、古城宇多津聖通寺城に入り統治した戦国の武将です。

寺伝によれば、秀久は巨大薬缶を愛用していたとされます。現存する薬缶は銅製で高さ35cm直径35cmの大きさです。



【指定文化財】

- ◆ 木造千手観音立像 (国重要)
- ◆ 石造薬師如来座像 (町指定有形)
- ◆ 木造釈迦如来座像 (町指定有形)
- ◆ 聖通寺本堂 (町指定)
- ◆ ゆるぎ岩 (県指定天然記念物)



ゆるぎ岩



聖通寺市の賑わい

【主な年中行事】

大般若経法要 (聖通寺市)	4月	西遊記でおなじみの玄奘三蔵訳の大般若波羅密多經六百巻を転読する、現世利益の祈祷法要です。 四月第二日曜日。 聖通寺市は、今から千百数十年前に理源大師が村人たちとともに家庭和楽、厄除開運、身体健全を願い、大石仏と親しい縁を結ぶために始めた市です。市は桜の時期に行われるため、花見と兼ねて多くの人が訪れ、賑わいます。
土砂加持法要	9月	秘密呪を修行する法要。先祖霊を供養し、子孫の繁栄を祈るものです。